（第２号様式）

神奈川県教育委員会教育長　殿

令和６年３月 21 日

県立市ケ尾高等学校長

# 令和５年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

| | 視点 | ４年間の目標<br>（令和　年度策定） | １年間の目標 | 取組の内容 | | 校内評価 | | 学校関係者評価<br>（12 月 22 日実施） | 総合評価（３月 21 日実施） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 具体的な方策 | 評価の観点 | 達成状況 | 課題・改善方策等 | | 成果と課題 | 改善方策等 |
| 1 | 教育課程<br>学習指導 | ①新しい時代を築く『人間力』を学力の側面から育成する教科指導を展開する。<br>②「総合的な探究の時間」の研究開発等をとおして、次代に求められる資質を常に見極め、人材の育成につなげる教育活動を推進する。 | ①生徒に身に付けさせたい「学力」や適正な評価の研究と明確化を進めるとともに、新「学習指導要領」の円滑な運用に向け教育課程の研究を続ける。<br>②教科内での議論の深化と、教科横断的な「学び」の研究を進める。 | ①・本校生徒に必要な学習内容を精選し、生徒に身に付けさせたい学力を意識した教科指導を展開する。<br>・ICT 端末を使用した授業や適切な評価の在り方を研究し、校内での統一を図る。<br>・新教育課程の開始に伴い、カリキュラム･マネジメントの視点から、本校の育てたい人物像を意識し、具体的な教育活動の方針を確立する。<br>②「総合的な探究の時間」を中心に、各教科において、課題発見力を育成する。 | ①・年間指導計画の適切な見直しを図り、実践することができたか。<br>・ICT 端末を用いた授業の研究を行い、適切に評価をすることができたか<br>・学校目標を達成するための教育活動の計画が策定できたか。<br>②・目標に沿った適切な課題設定ができたか。<br>・「情報収集・分析」、「課題の分析・考察」をする学習ができたか。<br>・課題の解決提案を通して、生徒間による相互評価の力を育成できたか。 | ①・新課程における指導と評価の一体化を意識しつつ、ICT を活用した学習も活用しながら、生徒に身に付けさせたい学力を意識した学習内容の充実を図った。<br>・カリキュラム・マネジメントの視点から、本校の育てたい人物像を意識した教育活動を行った。<br>②「総合的な探究の時間」を中心に、教科横断的な探究活動をとおして課題発見力の育成に取り組んだ。 | ①・新課程における評価方法は確立しつつある。来年度の全面移行へむけさらなる研究を進める。ＩＣＴの活用スキルは生徒、教員ともに向上しており、さらなる活用方法の研究を行いたい。<br>・策定した新課程をどのように生徒の学力向上や進路実現につなげていくかをさらに検討する必要がある。また、より生徒の進路が実現できるような教育課程の研究をすすめ、必要に応じて修正していきたい。<br>②「総合的な探究の時間」を中心に、学年ごとに進めていった内容を、学年を越えて情報共有していくことが必要である。 | （校内評価アンケート）<br>①４段階３以上：生徒 94%、保護者 92%、２以下：生徒 6%、保護者 8%<br>②４段階３以上：生徒 91%、保護者 89%、２以下：生徒 9%、保護者 11% | ①・学校目標である「社会的役割」を果たすための進路実現への支援のために、新しい教育課程による教育活動を行うことができた。<br>・一人一台端末を活用した学習活動を授業に取り入れることができた。資料の配付などをデータ化することで、欠席している生徒へも同じものを提供することができている。<br>②「総合的な探究の時間」については、学年ごとに計画的に実施できた。学年および教科横断的に展開していく必要がある。 | ①・新しい学校教育目標にあわせ、教育課程を弾力的に運用し、より生徒のニーズに合った教育課程について研究する。<br>・ICT 利用により、自宅での学習は動画やプリント等により可能になっている。<br>②「総合的な探究の時間」はキャリア支援グループが主体となって進めているが、グループ、学年および教科横断的に進めていく必要がある。 |
| 2 | （幼児・児童・）<br>生徒指導・支援 | ①新しい時代を築く『人間力』を人格形成の側面から育成する教科外指導を展開する。<br>②一人ひとりが豊かな人生を切り拓くために、それぞれの『生き方』や人としての在り方を学ぶ教育活動を推進する。 | ①多くの制限により縮小された学校行事をコロナ以前の活気に満ち溢れたものに戻し、より良くするための方法を再検討し、生徒の充実した学習機会を提供する。<br>②・人としての「在り方」「生き方」を考えさせる指導を通して、自他を尊重し、人として備えるべき資質を身に付けさせる。<br>・教育相談体制 | ①生徒会本部や委員会等の生徒が中心となり、生徒一人ひとりが輝ける行事の在り方を検討し、協力して実行できる学びの機会とする。<br>②・遅刻指導等の日常的な指導を徹底し、道徳観や規範意識を高める。<br>･人権研修等を通じ、自尊感情を育み、また多様性を認める意識を醸成する。<br>・面談、生活状況調査を通して、生徒の“困り感”に組織的に対応す | ①生徒主体の生徒会行事を企画・運営することができたか。<br>（アンケート）<br>②・遅刻指導対象者数を減らすことができたか。<br>・道徳観や規範意識を高めることができたか。<br>（人権講話後アンケート）<br>・面談、生活状況調査を適切に実施し、組織的に対応できたか。 | ①新入生歓迎会を始め、より多くの生徒が楽しめるよう検討し充実した行事を行うことができた。文化祭においては一般公開し、中学生や地域の方々にも楽しめる企画を実施し、交流から多くを学ぶことができた。<br>②頭髪服装指導を徹底することで、模範意識を高めることができた。また、面談、生活状況調査を活用することによって、いじめの未然防止を実現できた。さら | ①本校生徒のみならず、外部の方へのおもてなしなど、誰もが楽しめる行事を目指し、企画・計画を検討する必要がある。<br>②遅刻指導、服装頭髪指導等の指導を継続し、規範意識をさらに高めていく必要がある。<br>・様々な悩みや不安を抱えている生徒を把握し、その悩みに対して適切に対応し、生徒が安心して学校生活が送れるように教育相談体制をより充実させる必要が | （校内評価アンケート）<br>①４段階３以上：生徒 92%、保護者 97%、２以下：生徒 ８%、保護者４%<br>②４段階３以上：生徒 96%、保護者 96%、２以下：生徒 ４%、保護者 ４% | ①行事や部活動・地域での活動では多くの方々と触れ合うことができ、発表の場が広がり充実した学習機会を得ることができた。文化祭では多額のお金を扱うため、安全に運営する方法を模索する必要がある。<br>②全体的に、落ち着いているが、登下校マナーについての指摘を受けることが多い。 | ①文化祭では電子マネー等で現金を直接扱わないなど工夫し、生徒が安心して運営できる行事を目指す。<br>②遅刻指導・服装頭髪指導等、指導を継続し、規範意識を高めていくとともに、交通安全指導を通して、社会の一員としてのマナーを身につけさせる。 |

| | 視点 | ４年間の目標<br>（令和　年度策定） | １年間の目標 | 取組の内容 | | 校内評価 | | 学校関係者評価<br>（12 月 22 日実施） | 総合評価（３月 21 日実施） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 具体的な方策 | 評価の観点 | 達成状況 | 課題・改善方策等 | | 成果と課題 | 改善方策等 |
| | | | の更なる充実を図り、実践を重ねる。 | る。 | | に、２学期より「かながわ子どもサポートドック」を導入することで、“困り感”を感じている生徒を抽出することができ、組織的に対応することができた。 | ある。 | | | |
| 3 | 進路指導・支援 | ①主体的に自分の将来像を描き出し、『社会的役割』を果たそうとする姿勢の確立を支援する。<br>②一人ひとりの進路実現を支え切る指導と支援の体制構築と効果的な実践を図る。<br>③「総合的な探究の時間」の研究開発等をとおして、次代に求められる資質を常に見極め、人材の育成につなげる教育活動を推進する。 | ①望ましい職業観や勤労観を土台にしたキャリア形成を支援する方策を構築する。<br>②各教科との連携により、進路指導の観点から求められる学習指導の在り方を追求する。<br>③教科内での議論の深化と、プロジェクトチームを中心とした、教科横断的な「学び」の研究を進める。 | ①社会の一員として働くことの意義に気付かせ、カリキュラム･マネジメントの視点から、本校の育てたい人物像として求められる人間力を養うプログラムを策定する。<br>② 進路実現に向け、入試対応や学力の定着に向けて、必要な学習内容を研究し、各教科での実践につなげる。<br>③「総合的な探究の時間」を中心に、各教科において、課題発見力を育成する。 | ① 本校の育てたい人物に求められる人間力を養うプログラムを策定することができたか。<br>② 生徒の理解度や習熟度を課題、模擬試験等で把握し個別対応ができたか。<br>③ ・目標に沿って適切な課題設定ができたか。<br>・「情報収集・分析」、「課題の分析・考察」をする学習ができたか。<br>・課題の解決提案を通して、生徒間による相互評価の力を育成できたか。 | ①職業分野別説明会を実施することで、社会の中で責任を背負いながら働くことの意義を考え、自分が社会に出たときの将来像をイメージできるようにした。<br>②入試を念頭におき、各学年での必要性を考え、各教科で計画的に授業を進めることができた。<br>③キャリア支援グループとして取りまとめながら、教科横断および学年横断的な探究活動をとおして課題発見力の育成に取り組んだ。 | ①職業分野別説明会の実施時期を次年度の選択科目決定の時期とリンクさせることがカリキュラム開発グループとの間で確立できている。今後も継続していく。<br>②定められた内容を授業で進めていく中で、生徒に考えさせ結論を導く時間を作っていくことは課題である。<br>③「総合的な探究の時間」で学んだ探究のプロセスを様々な場面で活用できるようにより意識付けることが大事である。 | （校内評価アンケート）<br>①４段階３以上：<br>生徒 96%、保護者 90%<br>２以下：<br>生徒　４%、保護者 10%<br>②４段階３以上：<br>生徒 91%、保護者 89%<br>２以下：<br>生徒　９%、保護者 11%<br>受験結果と違い、形として表れにくいものでもあるので、時間をかけて伝えていく必要があると考えます。 | ①職業分野別説明会で社会に出たときの将来像をもち、その自己実現に向けた高校卒業後の進路を具体的に考える流れが確立できている。これは、ほぼ全員の生徒が上級学校への進学を考えているからこそ確立できている流れでもある。<br>②授業をとおして基礎学力を定着させ、さらに応用力をつける授業を教科ごとに検討し進めることができている。それを教科横断で共有するとより良くなっていくと考える。<br>③学年ごとに計画的に実施できている。教材として何を使用していくことが良いのか、判断が難しい内容でもある。 | ①ここ数年できていることではあるが、カリキュラム開発グループとの連携を密に取っていく。<br>②カリキュラム開発グループで実施している、授業見学週間を上手く利用していくと良いと考える。<br>③キャリア支援グループが主体となりながら、学年ごとに担当を出してもらうことで、教科横断、学年横断、グループ横断的な活動に繋がっていくと考える。 |
| 4 | 地域等との協働 | ①社会の一員としての資質や意識の向上を目指して、多様な人たちとの係わりの中から『生き方』を学ぶ機会を拡充する。<br>②学校が「地域でもっとも善良なる隣人」であるために、様々な活動や実践に取り組む。 | ①「成年年齢」の引き下げ等を視野に入れ、学校や地域等との連携・協働を推進し、教育活動の充実を図る。<br>②地域等との更なる工夫ある連携・協働の方法等を検討し、これらの推進を図る。 | ①②目標達成のための新たな地域等の連携・協働の方法を模索し、連携可能な事業等を拡充し、教育活動の充実を図る。 | ①社会人としての資質や意識の向上を視野に入れた『生き方』を学ぶ機会の拡充ができたか。<br>②新たな地域等の連携・協働の方法を模索し、実践できたか。 | ①登下校時のマナーについて、青葉警察署と連携し体験型交通安全教室を実施することにより、生徒の意識づけを行った。また、成年年齢の引下げを視野に入れた「金融教育」を行った。<br>②近隣の学校等との連携事業、地域貢献活動等を通して、地域人としての意識の醸成を行った。 | ①②キャッチボール教室をはじめとして新たな地域連携事業を行うことができたが、今後も良好な関係性を構築する連携事業を模索するため、研究していく必要がある。 | （校内評価アンケート）<br>①４段階３以上：生徒 96%、保護者 92%、２以下：生徒　４%、保護者８%<br>学校周辺地域への思いやりの気持ちについては、約９割の生徒が持っていると回答しているが、その具体的な方法がわからず、実践に至らない場面もある。 | ①②「成年年齢」の引下げを視野に入れた事業や、生徒が「地域人」としての自覚を持つための連携事業等を行うことにより、生徒の意識をある程度醸成することができた。 | ①②今年度実施した新たな連携事業については、継続して実施していく。また、学校目標実現のための連携事業等を模索するため、今後も研究を進めていく。 |
| 5 | 学校管理<br>学校運営 | ①すべての人が学び活躍して、成長を続けられる学校づくりを推進する。<br>②将来にわたって、社会的な役割と責任を果た | ①学校運営のさまざまな場面を通し、これからの「神奈川の教育」を主体的に担うことができる人材育成を目指す。 | ①校内研修や不祥事防止研修などを通し、知識習得やディスカッションを行うことで個々の資質向上を図る。<br>②超過勤務の是正 | ①個々の資質向上につながる研修や機会の設定や知識習得ができたか。<br>②・教職員各自が業務の精選、見直しを通して | ①10 月に「同和問題」に関する職員研修を行った。<br>未だに解決されていない人権侵害について、当事者から直接話を聴くことで人権意識を高 | ①人権研修については、今年度は、県指定の研修であったので、次年度の研修に向けてテーマの選定や方法について検討を行う。 | （校内評価アンケートには学校管理・運営に関する記載なし）<br><br>・事後に行われた学校運営協議会においても、特に意見・要望なし | ①今年度の目標については、校内研修会や不祥事防止研修などを通して概ね達成することができた。コロナ禍が明け、対生徒や職員間など、新しい時代に応じ他者の立場にたって学校運営を行うために、さまざまな視点からテーマを設定し研修を行っ | ①職員研修については、アンケートなどを行い、職員全体で取り組めるテーマを設定し、取り組んでいく。<br>②超過勤務削減のため、引き続き勤務時間管理システムなどのデータを活用し、基準を超過している職員と産業医との面談な |

| | 視点 | ４年間の目標<br>（令和　年度策定） | １年間の目標 | 取組の内容 | | 校内評価 | | 学校関係者評価<br>（12 月 22 日実施） | 総合評価（３月 21 日実施） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 具体的な方策 | 評価の観点 | 達成状況 | 課題・改善方策等 | | 成果と課題 | 改善方策等 |
| | | すことができる「持続可能な学校」づくりに取り組む。 | ②生徒と対面し関わる時間をより多く確保することと、教職員における心身両面の健康維持・増進、ワークライフバランス実現のために、学校運営の方法や働き方の改善・改革を推進する。 | を目指し、各教職員が業務の精選や見直し、意識改革を行う。また、意識的・積極的に定時退庁を心掛け、週に１回以上実践する。 | 意識改革を行い、超過勤務を是正できたか。<br>・定時退庁を積極的に実践できたか。 | めることができた。<br>②衛生委員会における討議などを通じて、超過勤務や過重労働を減少させるよう、職員の意識醸成を行った。 | ②職員のワーク・ライフバランス実現のため、さらに超過勤務を減らすための意識づけを行う。 | | ていく。<br>②超過勤務を減らすための意識や努力は概ね醸成されてきたが、依然として一部の職員に業務負担が集中する傾向があり、改善することが望まれる。 | どを通じて働き方の改革・改善を行っていく。 |